

所属	心理学研究科 臨床心理学専攻 修士課程	修了年度	2018年度
氏名	高見 真由	指導教員 (主査)	丹 明彦

論文題目	青年期における評価懸念および承認欲求とひきこもり親和性との関連
------	---------------------------------

### 本文概要

【問題意識・目的】ひきこもりは青年期に発生しやすい、現代の日本における大きな社会問題である。そのことに関連し、近年ではひきこもり親和群に関する研究がなされており、ひきこもりとひきこもり親和群では共通して社交不安との関連が示されている。本研究では、過敏型自己愛とひきこもりとの関連の研究の中で関連が想定されてきた評価懸念と承認欲求を取り上げることとする。従来の研究では、評価懸念は否定的な評価への恐れ(以下、FNE)のことを指していたが、近年では肯定的な評価への恐れ(以下、FPE)に関する研究も行われており、社交不安との関連は FNE と FPE の両方で示されている(Leary, 1982; 吉澤, 2018)。承認欲求は、菅原(1986)により賞賛獲得欲求と拒否回避欲求の2つの欲求からなることが示されており、後者の欲求は社交不安の背景に存在する(笹川・猪口, 2012)。すなわち、評価懸念と承認欲求の両方が社交不安と関連があること、ひきこもりの背景として社交不安があることが明らかになっているものの、ひきこもりやひきこもり親和性と、量的に直接関連を見た研究は行われていない。また、これまでに本邦で行われた評価懸念に関する研究の多くでは、肯定的評価に対する懸念は取り扱われていない。そこで本研究では、FPE と FNE の2つの評価懸念及び承認欲求とひきこもり親和性との関係性を検討するとともに、評価懸念及び承認欲求のスタイルとひきこもり親和性との関連について検討することならびに、評価懸念と承認欲求の異同を検討することを目的とする。

【方法】大学生 252 名に質問紙調査を実施した。①年齢、性別、学年②評価懸念尺度: Fear of Positive Evaluation Scale (FPES)日本語版(前田他, 2015)、他者からの否定的評価に対する社会的不安測定尺度(FNE)短縮版(笹川他, 2004)③承認欲求尺度: 賞賛獲得欲求・拒否回避欲求尺度(小島他, 2003)④ひきこもり親和性尺度: ひきこもりへの志向性や理解を示す傾向を測定する質問項目(東京都青少年・治安対策本部, 2008)について回答を求めた。

【結果と考察】FPES と FNE の2つの評価懸念のそれぞれの高さにより4群に分け、4群を独立変数、ひきこもり親和性を従属変数とした1要因の分散分析を行った。その結果、FPE と FNE の一方でも高い場合には、FPE と FNE の両方が低い場合よりもひきこもり親和性が高くなることが示された。次に、2つの評価懸念と、承認欲求尺度の各下位因子の得点を用いてクラスタ分析を行い、3つのクラスタ(他者賞賛期待・拒否懸念群、他者評価無関心群、他者評価懸念群)を得たのち、3つのクラスタを独立変数、ひきこもり親和性を従属変数とした1要因の分散分析を行った。その結果、他者評価懸念群が他者賞賛期待・拒否懸念群に比べて有意に高い得点を示していた。このことから、同じように他者からの否定的な評価を恐れ回避したいと考えている者であっても、自らに向けられた肯定的な評価や賞賛をどのように捉え、どのように感じるかによりひきこもりへの親和性の高さが異なることが示唆された。また、他者評価懸念群では、他者との関わりにおいて過度に周囲の人の目を気にし、目立たないようにすることで他者から評価を受けることを避ける者や、評価的でない特定の他者と深い関係を築き、その者に対してのみ自己開示を行う者が含まれる可能性が考えられた。他者評価無関心群は他者からの評価について不安に思わず他者からの影響を受けづらいという点で上記の2つの群とは異なった心性を持つ群であることが予測される。したがって、ひきこもり親和性の高いものに対しての援助としては、友人を作る機会を提供することや、社会性や対人スキルを向上させる取り組みを行うこと、また、評価を受けることで不利益があるのではないかという思い込みへの介入を行うことが効果的であると思われる。